

## 第6回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

**と き** 5月24日(金)  
**テーマ** 古里津山に誇りと愛着を  
**参加者** 光岡宏文さん(国分寺)、村上雅人さん(東新町)、長谷川 毅さん(田町)、  
河原 淳さん(二宮)、西口元庸さん(美作市)、土居大介さん(吹屋町)

一般社団法人津山青年会議所(以下「J C」)の6人が市長と意見交換を行いました。

### 模擬天守を通して誇りと愛着を

J Cから、美作国建国1300年記念事業の一つとして、津山城模擬天守を制作していることが紹介されました。古里津山に誇りと愛着を持ってもらおうと、原寸の2分の1の高さで天守を再現。約90人のボランティアと協力し、7月末の完成を目指していることが説明されました。

市長は、J Cのまちづくりに対する積極的な取り組みに感謝するとともに、今後も、若い視点や新しい感性を持って頑張っていたきたいと激励しました。

### 市民憲章をもっと身近に

J Cから、市民憲章のマスコットキャラクター「さくらん」のバッジを、J Cの会員が着用していることが紹介されました。そして、子どもたちにも市民憲章を浸透させ、「自分たちが、まちをつくっている」という意識付けが必要との提言がなされました。

市長は、子どもから大人まで、市民憲章を通して、古里を愛する気持ちを持つことが大切で、そのためには、J Cや市などが知恵を出し合い、連携して取り組みを進めていく必要があると話しました。

### 宮古島市との交流を大切に

J Cから、7月に、津山圏域の子どもたちと東日本大震災により被災地から津山に避難している子どもたち、宮古島の子どもたちが、津山市と姉妹都市の沖縄県宮古島市で民泊・キャンプ事業を実施することが紹介されました。

今回の事業は「つながり」をテーマとして、参加する子どもたちが一つにつながり、人を思いやる心など豊かな人間性を育むことを目的としていることが説明されました。

市長は、本年度は宮古島市立平良第一小学校と津山市立南小学校、来年度以降は宮古島市と津山市、宮古J Cと津山J Cが姉妹縁組50周年を迎えることから、一層、絆を強めていきたいと話しました。

